

2017年からのDXの取り組みと現在地、これから

ディスクレーム等

意見は私石川陽一の私見です。
機能等の理解が浅い、間違いを含む
可能性があります。

アジェンダ

1. 自己紹介・会社概要～DXとは
2. 2017年の取り組み開始前後
3. TMS → KMS, AI, API
4. コロナ禍以降 ローコードアプリ&可視化
5. ゼロトラスト
6. DX Criteria
7. まとめ

石川陽一 (50) : Citizen Developer, CISA, auカブコム



富山出身。奥中(八村罫)、富山高校、同志社大学



1999 日立子会社SEを経て、カブコム立ち上げ
日本初のフルWindows等オープン系金融機関でIT担当
(IT部門の他、コールセンター構築・運用、現・経営管理、PTS、事務)

2004-2012 執行役

3 2013 システム監査・内部監査 (4代目内部監査室長。5代目は海川)

2015 半年で3回致死的不整脈。ICD装着。身障1級

2 2017/2- サイバー等セキュリティ

2019- Microsoft 365 E5 / Power Platform推進

2019/11-2020/3 致死的不整脈多数。ICDと3/13カテーテルアブレーション手術で復活

2020/4 システム統括部門

会社概要

- 2019/12/2 商号変更
- 口座数 約125万口座
- 従業員数 約182名
- 拠点数 2→1

DXとは

Wikiの「段階」を参考に

1. デジタイゼーション アナ→デジ
2. デジタライゼーション
3. DX ビジネスプロセス

2以上

人、組織…が**変**わる



2017年の取り組み開始前後

カブドットコム証券にDDoS攻撃、検知から約38分後にブロック

梶原 康 日経コミュニケーション

2017.06.29



PR

“顧客に寄り添う”保守サービス：システムの安定運用に悩む情シスの助っ人とは
収集だけになっていないか？ビジネスに価値を与えるデータ活用を実装する方法
【函館五稜郭病院】5年先でも色褪せない基盤を求め、医療の質と業務効率が向上

ネット証券会社のカブドットコム証券は2017年6月29日、DDoS（分散型サービス拒否）攻撃を受け、取引サイトなどがアクセスしづらい状況になったと発表した。ただ、同社はセキュリティインシデントへの対応を担う「CSIRT」を設置し、DDoS攻撃の対策も導入済みだった。このため、アクセスしづらい状況が続いたのは午前9時2分頃から午前9時38分頃までの36分間程度にとどまり、既に復旧しているという。

同社によると、異常なトラフィックを検知したのは午前9時。午前9時2分頃には取引サイトにログインできない状況に陥った。攻撃元のIPアドレスを突き止め、午前9時38分頃にはブロックを完了した。同社はDDoS攻撃をはじめ、様々な攻撃シナリオに基づいた行動手順を定めており、当局ならびに警察、関連ベンダーと連携して対応に当たった。攻撃を受けた原因については確認中で、攻撃元については回答できないとしている。

6月29日(木)に発生したサイバー攻撃について

6月29日(木) 9時00分頃より、当社サイトに対するサイバー攻撃(DDoS攻撃)があり、9時02分頃から9時38分頃までの約36分間、当社のビザターサイト及びお取引サイトにアクセスしづらい状況となりました。お客様には大変お詫言をお出しし、順に申し訳ございませんでした。

出所 「日経 xTECH」
<https://tech.nikkeibp.co.jp/it/atcl/news/17/062901804/>

DDoS事案概要

2017/6/29(木)に発生したDDoS攻撃の概要です。
約36分間、ビジターサイト及び取引サイトにアクセスしづらい状況となりました。

8:54 攻撃者から脅迫メールが届く
SPAMメールとして隔離されていた

9:00 FireWallで異常な通信を検知、調査開始

9:02 ビジターサイト、取引サイトが閲覧しづらくなる

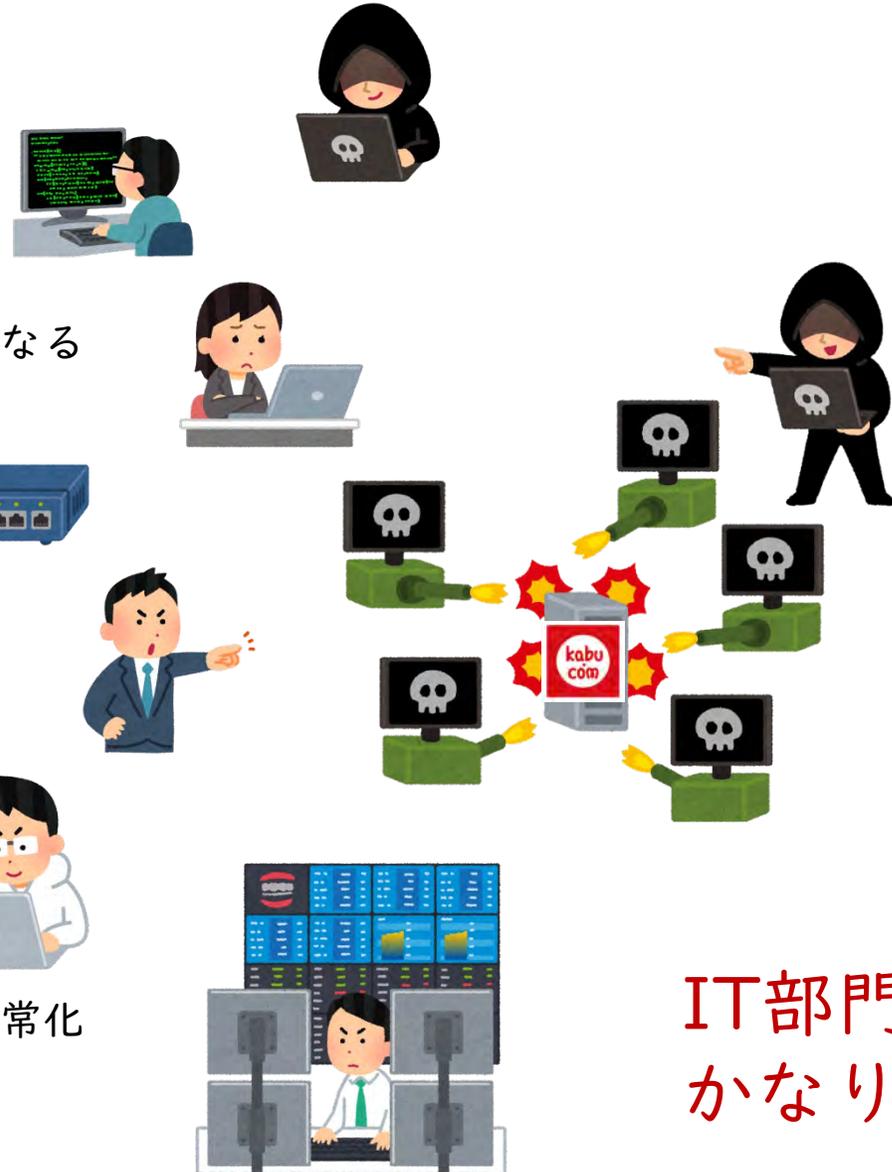
9:13 ネットワーク機器の正常稼働を確認

9:28 DDoS攻撃と断定、攻撃相手の特定調査開始
(国内外の多数のIPから攻撃)
SNSなどで状況説明

9:38 プロバイダーにて攻撃を遮断

9:38 ビジターサイト、取引サイトなどの閲覧が正常化

15:33 ビジターサイトに経緯掲載



その頃の主な反省

- 情報共有が弱い
- ダッシュボードがない
- 社内ITが弱い
- 紙、押印、進展しないGW
- ID管理が雑
- メールが多い
- どこか人力感
=コミュニケーションが部分的に×
- IT部門以外もITを迅速に使えないと

デジタルトランスフォーメーションを支えるIT主導の働き方改革

～ クラウド+テレワークで生産性向上を推進。 仮想PBXに対応したau iPhoneを活用 ～

2017年6月22日

お知らせ

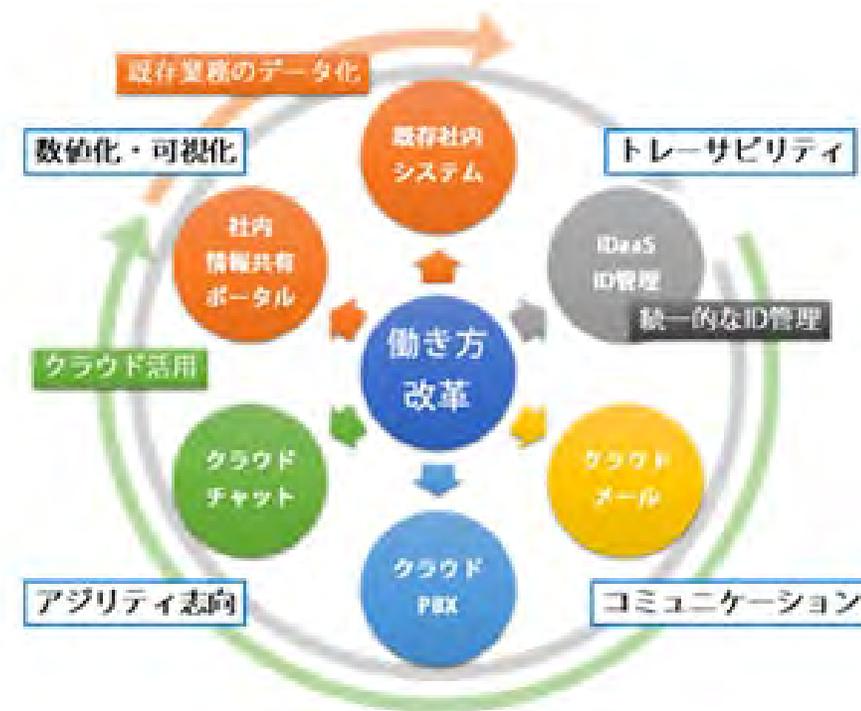
カブドットコム証券株式会社（代表執行役社長：齋藤 正勝、証券コード：8703、以下「当社」）は、「デジタルトランスフォーメーションを後押しする抜本的な働き方改革」をテーマとし、「クラウドとテレワークを活用したIT主導での生産性向上」を目指す社内業務改革の取り組みを開始しました。

当社は、社内業務におけるコミュニケーション・プラットフォームの刷新を中心に、積極的にクラウド基盤やクラウドサービスを活用し、社内外の業務効率向上のための改革を進めます。各種最新デバイスを活用しテレワーク（リモートワーク）環境を拡充、業務のデジタル化・自動化による生産性の向上を推進し、業務改革としてデジタルトランスフォーメーションを軸足とした働き方改革により、企業価値の一層の向上と上場企業としての社会的責任を果たし、実践して参ります。

デジタルトランスフォーメーションを支えるIT主導の働き方改革

～ クラウド+テレワークで生産性向上を推進。仮想PBXに対応したau iPhoneを活用 ～

- クラウドPBX+内線iPhone(MDM)
- ビジネスチャット
- Win10Ent + O365
- POWER EGG (新GW)
- IDaaS
- 情報の可視化



2017～2018頃

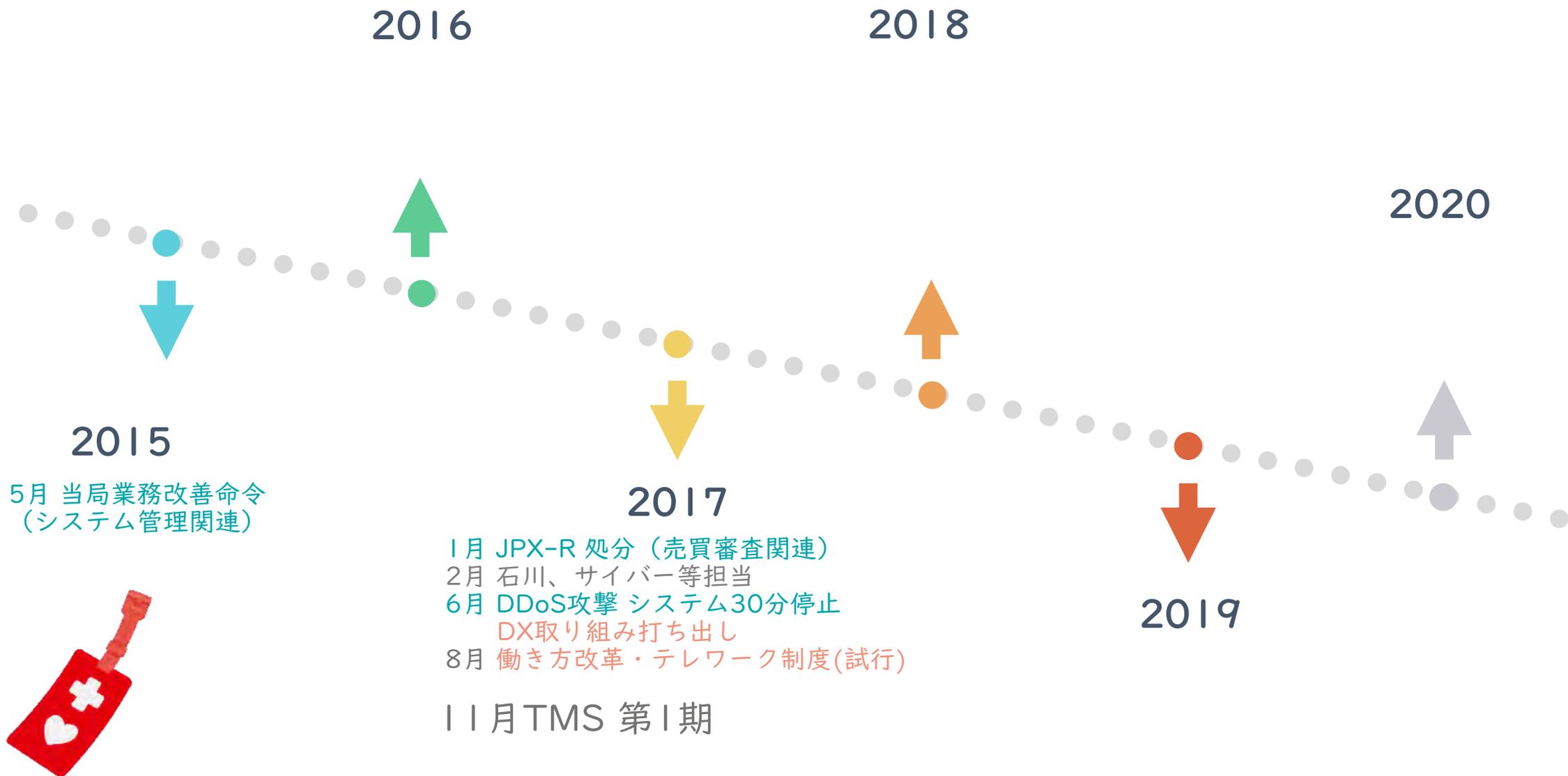
- 情報共有が弱い
- ダッシュボードがない
- 社内ITが弱い
- 紙、押印、進展しないGW
- ID管理が雑
- メールが多い
- どこか人力感
=コミュニケーションが部分的に×
- IT部門以外もITを迅速に使えないと



onelogin



TMS → KMS, AI, API



三井伸行先生（戦略スタッフ・サービス）

主たる実績（直近10年）

- ソフトウェア生産技術力向上の為のコンサルテーション
- Agile開発の導入指導・プロジェクト支援（プロジェクトレスキューも含む）
- 基幹系、生産管理、等
- TMS（TPSのホワイトカラー版）の導入指導（ホワイトカラーの現場改善）
- TPS：Toyota Production System：Lean，Agile開発の源流
- 働きかた改善の指導（コーチ）
- W/Fプロジェクト現場の見える化支援
- DevOpsの普及活動と導入支援

資格

- 米国ScrumAlliance.org 認定の公認スクラムマスター
- TMS&TPS検定協会 認定TMS (TOYOTA Management System)講師
- EXIN Agile Scrum Foundation 認定講師
- EXIN Executive Designer for DevOps Certification

日経コンピュータ連載記事

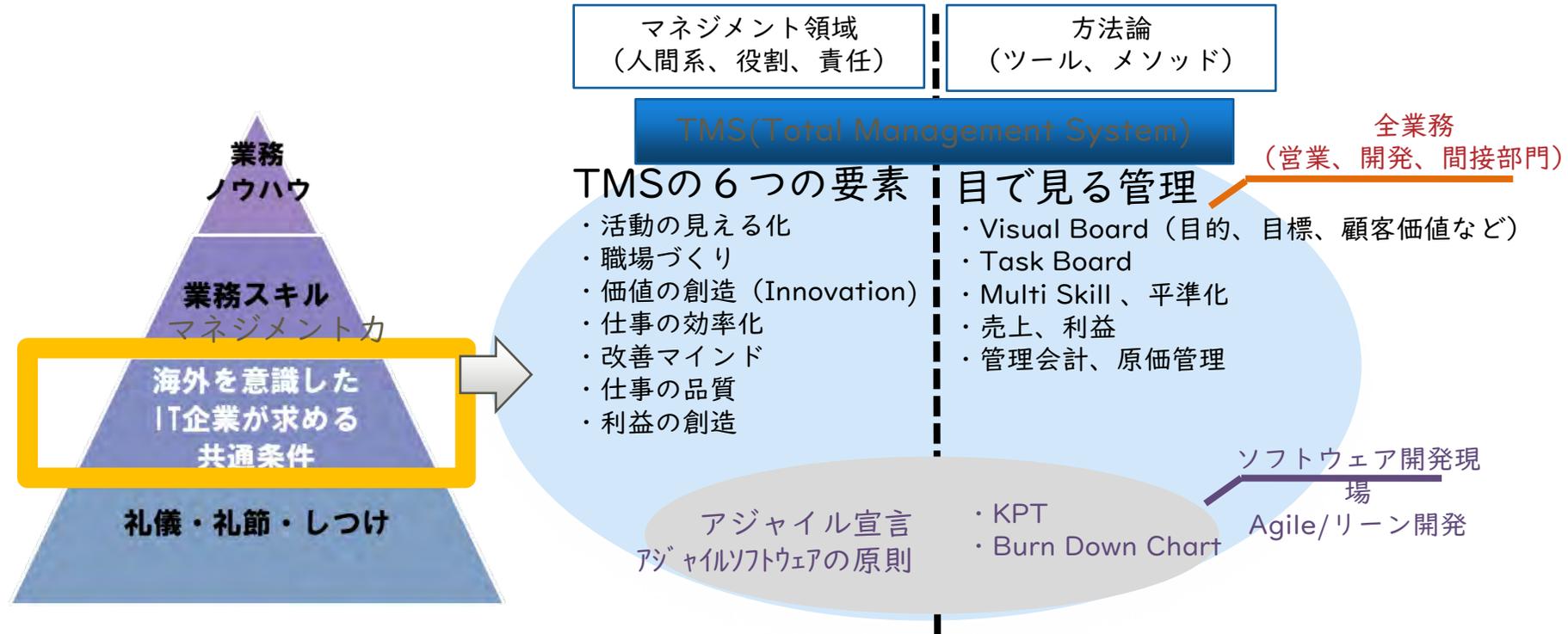
「現場を元気にするチーム運営術」：2017年4月13日号～2017年8月17号

「現場を元気にするDevOps2.0」：2017年9月14日号～ その他多数執筆



TMS(Toyota Management System)

TMSの歴史は浅い（2009年～）のですが、元々はTPS（Toyota Production System:トヨタ生産方式）のマネジメントを源流にしています。TPSは海外ではLean（リーン）として広がっており、この考え方は、ITの世界にもアジャイル開発という形で徐々に浸透してきています。近年、大規模システムにおいてもScrum（スクラム）などの開発手法が取り込まれていますが、TMSでは、アジャイルのようにプラクティスに重点を置いた考え方より人間力（社会人基礎力）を重視し、グローバルに通用するモノの見方や考え方とプラクティスの2つに軸に置きバランスの取れた新たなマネジメント体系となっています。



海外実績：ボーイング社、ハーレーダビッドソン（米国）、InfoDeliver社（中国：大連）、ロシア、韓国企業

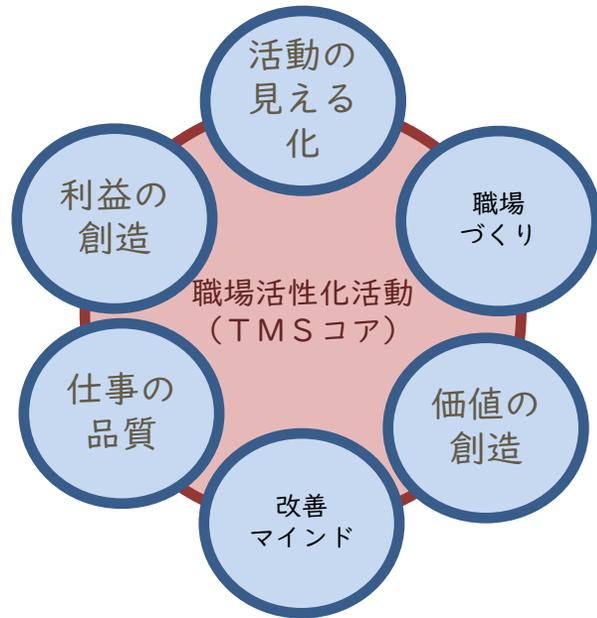
職場活性化活動

TMSコア（6つの要素）

この6つの要素を実践することで職場を活性化できる

6つの要素には、それぞれ「考え方」と「方法論」から成り立っている

TMSは「考え方」と「方法論」の両輪で実践する事で職場の活性化が早く進む



活動の見える化：

方針管理、 日常管理、 仕事の見える化

職場づくり：

コミュニケーション、 リーダーシップ

価値の創造：

お客様第一、成果へのこだわり

改善マインド：

ムダを見つける目、整理・整頓（2S）、問題解決力

仕事の品質：

統計的なモノの見方・考え方、 自工程完結

利益の創造：

利益を生み出す仕組み、生産性の向上

『人間性尊重』という考え方が中心

- ①自分にとってのお客様は誰か
 - ②あるべき姿と現状とのギャップは何か
 - ③あるべき姿に向けての行動を妨げている真因は何か
 - ④真因に対して直ぐに対策を打っているか
- これらの考え方を実践することが人間性尊重に繋がる行動

『失敗から学ぶ』

成功した時と同じ環境、同じ人、同じ行動が再現できるとは限らない

失敗にこだわる事が大事です（失敗は記憶に残る）

「なぜうまく行かないのだろうか？」を考え、仮説・検証しながら試行錯誤を始める

7つのむだ

「不要な〇〇」

つ

作り過ぎ

ものを余分に作る

て

手待ち

「待ち」の状態

ざ 在庫

備品・書類・データ、保持

動作 と

動き

か 加工

工程・作業

運搬 う

移動

ふ
不良

手直し・手戻りが必要





MSOfficeJP
@MSOfficeJP

【#MicrosoftTeams 活用事例第8弾】
#auカブコム証券 様からコメントをいただきました。
「#Teams タブ活用を競い中。#PowerBI による可視化 vs
#Planner によるタスクの可視化。写真は Intune 配下の
Teams 内に #リモートワーク の中村がいます。」
#TeamsWeek19 #働き方改革 #テレワーク

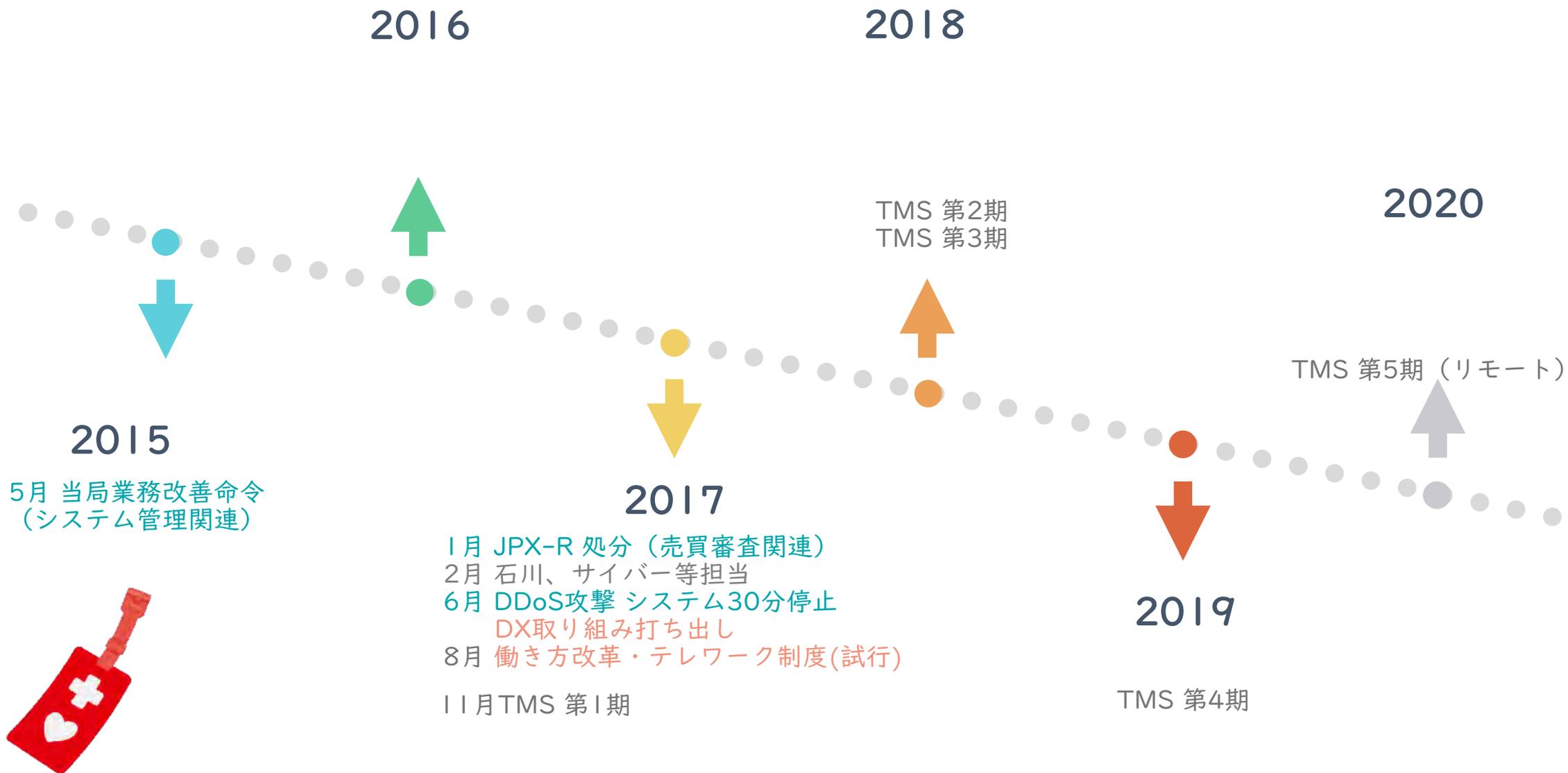


午後1:20 · 2019年12月18日 · Sprinklr Publishing

19 リツイート 46 いいねの数

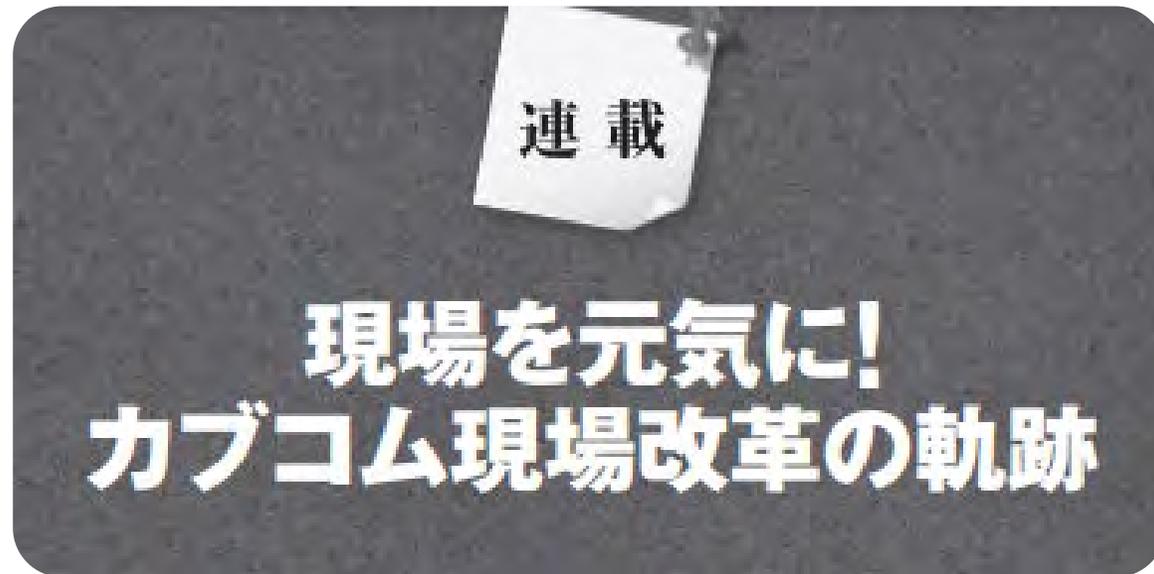


<https://twitter.com/MSOfficeJP/status/1207153705885274113>

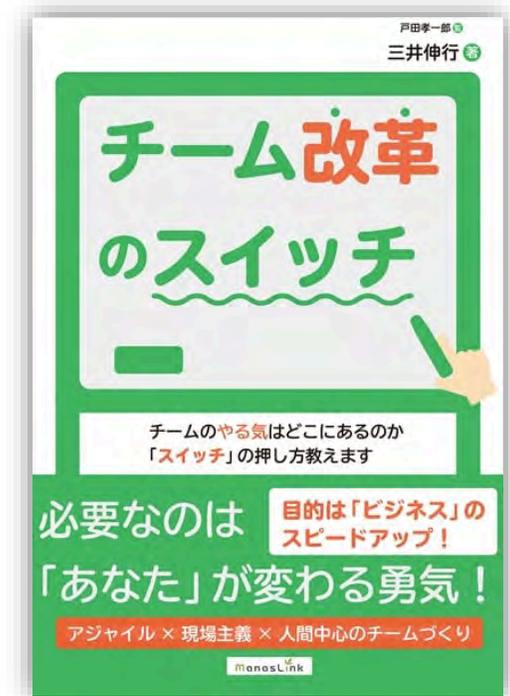


(参考) 日経コンピュータ・日経xTECHより

2019/01/16～全10回 私の取り組み例は2回目、10回目に



TMS塾
↓
KMSへ





日本を元気に・革新コンソーシアム

主催：日本を元気に・革新コンソーシアム

開催前イベント ▶ もっと見る
2021/03/27(土) 『チーム改革のスイッチ』

イベント メンバー 資料 **!** 0 いいね! 15 ツイート グループのメンバーです

グループの説明

2020/6/18発行『チーム改革のスイッチ』（三井伸行・著、戸田考一郎・監修）に関連する情報共有の場「日本を元気に・革新コンソーシアム」のイベント等のグループです。

イベント開催の予告『[チーム改革のスイッチ](#)』本ならびに「[日本を元気に・革新コンソーシアム](#)」設立を記念して、Webイベントを計画しています。イベントの告知・申し込みはこちらのconnpassグループで行います。

このイベントは水曜日～土曜日を1クールとして、三回行います。

- ・ 第一弾は7月29日（水）～ 8月1日（土）
- ・ 第二弾は9月23日（水）～25日（土）
- ・ 第三弾は10月28日（水）～ 31日（土）

いつの日もお昼休みの時間帯です。イベントは順次立ち上げます。

『チーム改革のスイッチ』関連のホームページ等

- ・ [『チーム改革のスイッチ』販売サイト](#)
- ・ [『チーム改革のスイッチ』の推薦文 | manaslink | pixivFANBOX](#)
- ・ [メイキングオブ『チーム改革のスイッチ』](#)

ハッシュタグ #jpinnova #TeamMitsui #Team三井 #チーム三井

メンバー (132人)

管理者



他のメンバー



リンク

[『チーム改革のスイッチ』販売サイト](#)

[Facebook](#)

資料 (24件)

[DXの為の管理モデル](#)
『チーム改革のスイッチ』#7 勝利をつかめ!

[Tech IntensityとDevOpsが導く企業のDX](#)
『チーム改革のスイッチ』#7 勝利をつかめ!

[Tech IntensityとDevOpsが導く企業のDX](#)
『チーム改革のスイッチ』#7 勝利をつかめ!

[グラフィックレコーディング @twitter](#)
『チーム改革のスイッチ』#6 事例・重宝物 Day

次回イベント



開催前 2021/03/27 (土) 10:00～ 10/20人

『チーム改革のスイッチ』#9 第1回 現場改善会議

石川 隆一 他

オンライン

フォロー参加者

終了したイベント

全てのイベントを見る (9件)



2021/03/06 (土) 13:00～ 26/32人

『チーム改革のスイッチ』#8 品質・現場重視



日本を元気に・革新コンソーシアム コミュニティ

チャンネル登録者数 76人



なぜなぜ5回 (5why) (『チーム改革のスイッチ』#8品...
2 回視聴・1 日前



協力会社とのパートナーシッ
プ (『チーム改革のスイッ...
6 回視聴・1 日前



ふりかえり会は懺悔の場でも
責任追及の場ではありません...
2 回視聴・1 日前



アジャイル開発のプラクティ
スに「バグのなぜなぜ分析...
9 回視聴・1 日前



コミュニケーション 3 共
感
11 回視聴・1 週間前



コミュニケーション (2)
11 回視聴・2 週間前



リモートワークに思う ～
オンラインで働く！
22 回視聴・3 週間前



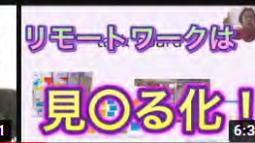
コミュニケーション (1)
13 回視聴・3 週間前



自己認識
14 回視聴・3 週間前



ブルシット・ジョブをやっつ
ける！ (リモートワークに...
258 回視聴・1 か月前



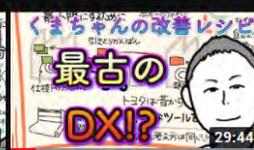
リモートワークは見せる化
(リモートワークに思う...
65 回視聴・1 か月前



マネジメントの本質
29 回視聴・1 か月前



参加者Q&Aトークセッション
(『チーム改革のスイッチ...
21 回視聴・1 か月前



最古のDXツール紹介 (くま
ちんの改善レシピ番外編 /...
14 回視聴・1 か月前



見える化、見せる化はすぐ始
められる
20 回視聴・1 か月前



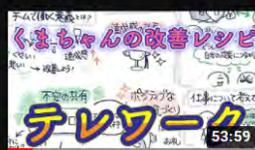
こころの知能指数 (EQ)
57 回視聴・1 か月前



DXの為の管理モデル (『チ
ーム改革のスイッチ』#7 勝利...
55 回視聴・1 か月前



Tech IntensityとDevOpsが導
く企業のDX (『チーム改革...
248 回視聴・1 か月前



テレワークの改善レシピ
(『チーム改革のスイッチ...
48 回視聴・4 か月前



アジャイル開発が組織に与え
た変化と気づき (『チーム...
37 回視聴・4 か月前



アジャイルコーチのよもやま
話 (『チーム改革のスイッ...
32 回視聴・4 か月前



リモートワークを考える
(『チーム改革のスイッチ...
94 回視聴・4 か月前



事務系職場の改善レシピ (く
まちんの改善レシピ1 /...
61 回視聴・5 か月前



投資経費予算の柔軟な見直し
(『チーム改革のスイッチ...
127 回視聴・5 か月前



テストの自動化落とし穴、テ
ストプロセスの成熟 TPI...
67 回視聴・5 か月前



全員ウォーターフォール開発
者によるアジャイル開発へ...
95 回視聴・5 か月前



『チーム改革のスイッチ』出
版記念 #4 出版記念パネル...
156 回視聴・7 か月前



見える化、自分の行動の透明
性 (『チーム改革のスイッ...
165 回視聴・7 か月前



現場が主役 TOYOTA way
(『チーム改革のスイッチ...
145 回視聴・7 か月前



「チーム改革のスイッチ」本
の攻略法+1 (『チーム改革...
221 回視聴・7 か月前

2012

主要ネット証券初
kabu.com API (初版) 提供開始

2016

10月 売買審査室新設

2018

6月 国内初 売買審査にAI (TIMS)

8月 kabu.com API (AWS版)

2020

8月 kabuステーション API

TMS 第5期 (リモート)

2015

5月 当局業務改善命令
(システム管理関連)

2017

1月 JPX-R 処分 (売買審査関連)

2月 石川、サイバー等担当

6月 DDoS攻撃 システム30分停止

DX取り組み打ち出し

8月 働き方改革・テレワーク制度(試行)

11月 TMS 第1期

TMS 第2期
TMS 第3期

2019

4月 TIMS高度化 AML/CFT対応 (CRISP)

TMS 第4期





ネット証券会社を悩ます人材不足、カブドットコム証券が後継者に選んだのはAI

個人投資家の約9割がインターネット上で取引する時代、ネット証券会社は不正取引を防ぐゲートキーパーとして、毎日、数100万件もの売買を審査する重要な役割を担っている。そんな中、ネット証券会社に突きつけられているのは人材不足という深刻な現実だ。この現状を打破するために、カブドットコム証券が選択したのは、AI（人工知能）を導入し、それを手塩にかけて育てることだった。

事例の概要

■ 背景

カブドットコム証券では、ネット証券取引の急速な拡大に伴い人材不足が顕在化。しかも高度な業務ノウハウを有した即戦力が必要なため、希望する人材の採用が困難だった。

■ 取り組み

日立のAIを売買審査業務などに導入。日立の技術者とカブドットコムの現場リーダーが膝を突き合わせて取り組み、専門知識を要する高度な業務に、短期間でAIを適用した。

■ 展望

カブドットコム証券と日立は、AIの適用範囲を広げるとともに、AIを活用した“稼げる仕組み”を業界全体で共有することで、協創効果のさらなる拡大をめざす。

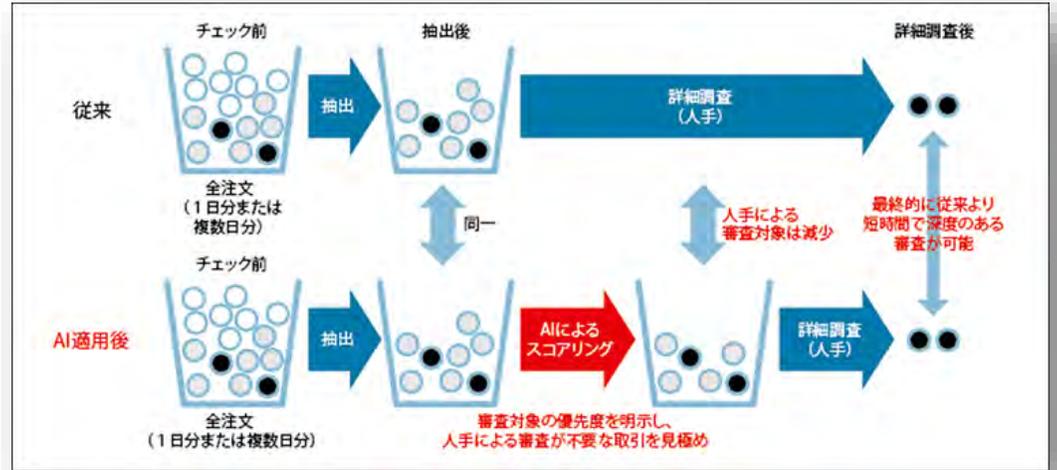
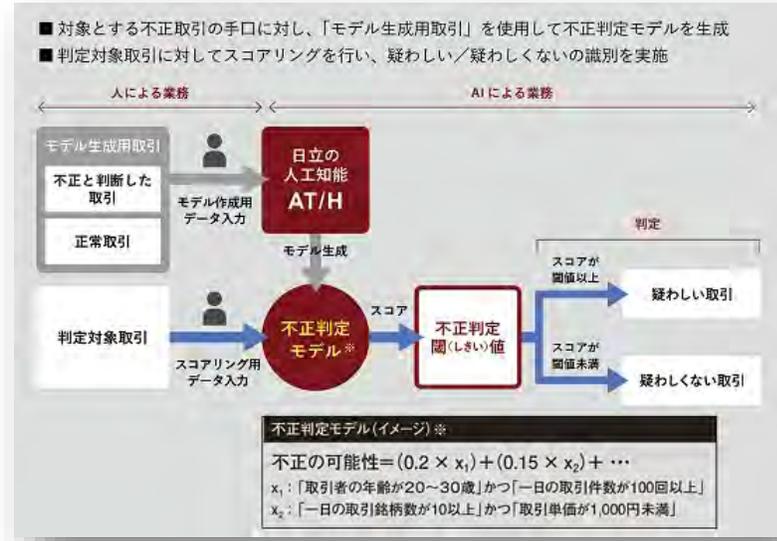
ネット証券会社を悩ます人材不足、カブドットコム証券が後継者に選んだのはAI：社会イノベーション：日立
https://social-innovation.hitachi/ja-jp/case_studies/kabu_com/



自社の成功事例を証券業界全体での協創へ

「数時間かかっている審査業務を30分で終わるようにするのが目標」と黒澤氏は話す。その可能性はすでに見えているという。また、今後は相場操縦だけでなく、インサイダー疑義検知や、疑わしい取引検知など売買審査業務全般にAT/Hを適用していく。さらに同社は、本来はライバルであるはずの同業他社に、予測した貸株レートを提供するエコシステムの構築を進めている。「これはAIが稼げると分かった現場から生まれたアイデア。自分たちがビジネスオーナーである意識が出てきた証拠です」。(齋藤氏)

現代の複雑な社会問題を解決するには、“協創”が不可欠である。健全な証券ビジネスの発展に貢献していくために、カブドットコム証券と日立は、長期的なパートナーとして協創プロジェクトを続けていく。



個人投資家向け高度プログラミング発注基盤

kabu STATION API

「個人投資家に、デジタルの武器を」

2019~

- 情報共有が弱い
- ダッシュボードがない
- 社内ITが弱い
- 紙、押印、進展しないGW
- ID管理が雑
- メールが多い
- どこか人力感
=コミュニケーションが部分的に×
- IT部門以外もITを迅速に使えないと



onelogin



2012

主要ネット証券初
kabu.com API (初版) 提供開始

2016

10月 売買審査室新設

2018

6月 国内初 売買審査にAI (TIMS)

8月 kabu.com API (AWS版)

2020

2月 コロナ禍でM365活躍

8月 kabuステーション API

TMS 第5期 (リモート)

2015

5月 当局業務改善命令
(システム管理関連)

2017

1月 JPX-R 処分 (売買審査関連)

2月 石川、サイバー等担当

6月 DDoS攻撃 システム30分停止

DX取り組み打ち出し

8月 働き方改革・テレワーク制度(試行)

11月 TMS 第1期

TMS 第2期
TMS 第3期

2019

4月 TIMS高度化 AML/CFT対応 (CRISP)

TMS 第4期

5月 M365本格利用開始

11月 BCP訓練でTeams活用



コロナ禍以降
ローコードアプリ&可視化

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言に伴う当社の対応に関するお知らせ

2020年4月7日 **お知らせ**

新型コロナウイルス感染症が日々深刻化している中、罹患された方、および関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
auカブコム証券では「緊急事態宣言」を受け、一部の業務においてお客さまにご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、金融機関としてお客さまに安定的なサービスを提供していくために、感染拡大を抑止し、お客さま、従業員を含むすべての方々の健康を守るために「ソーシャルディスタンス」他、感染防止対策に努めてまいります。

お客さまへの新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大に伴うご注意について

■相場変動についてのご注意ください

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界経済状況への不安から、株式相場や為替相場が不安定な状況となっております。

また、FX（外国為替証拠金取引）においては、急激な相場変動により、スプレッドが拡大しやすくなっております。詳細はFX（[外国為替証拠金取引](#)）をご覧ください。

なお、先行き不透明な相場のため、どのようなお取引においても余裕をもった資産運用計画や、投資資金でのお取引をお願いいたします。

■お客様サポートセンターへの電話が繋がりにくい状況です

新型コロナウイルスの感染拡大による不安定な相場から、通常よりも数多くのお問い合わせをいただいておりますが、緊急事態宣言を受けて、出社が困難なオペレーターもおり、お電話が非常に繋がりにくくなっております。

大変お手数ですが、メール（cs@kabu.com）でのお問い合わせをご検討ください。

また、[チャットボット](#)、[Q&Aよくあるご質問](#)もご不明な点が解消いただけるかと思っておりますので、ぜひご活用下さい。

■配当受取の為の基準日変更となる場合もあります

新型コロナウイルスの影響により、上場会社が、事業年度終了後に定時株主総会を開催できなくなり、新たに定時株主総会の日を定めた場合、配当金などの権利の基準日に変更されることもあります。その際、本来の事業年度末日に取得していた株式に配当の権利が付与されません。株主優待についても、同様な措置がとられることも考えられます。

詳細は、上場会社のホームページや問い合わせ窓口へご連絡ください。

■リアルセミナーを中止し、youtubeでのセミナー拡充しています

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、セミナー会場に集まっていただく形式のリアルセミナーは当面中止とさせていただきます。

なお、一方でyoutubeでのオンラインセミナーでの更なる充実を行ってまいりますのでチャンネル登録の上、[カブコム公式チャンネル](#)  ご利用ください。

お取引先さまへの新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大に伴うご協力をお願い

■不要不急のお打ち合わせを避ける

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、お取引先さまとの不要不急のお打ち合わせを原則で遠慮させていただき、業務に必要なお打ち合わせ等はインターネット会議システム（当社ではMicrosoft Teams）を利用しておりますので、どうぞお打ち合わせにご利用ください。

auカブコム証券の感染拡大防止への取組み

■原則テレワーク（遠隔業務）での業務

auカブコム証券では、かねてから全役職員にiPhoneおよびテレワークにも活用できるノートPCを配布してまいりました。2月より従業員は原則テレワークとしております。また、現在、お客さま対応や書面での手続きなど出社必須である従業員を除き、約7割程度がテレワークでの業務を実施しており、出社する際には時差出勤を積極的に活用しております。

■「3密対策」の徹底

多数があつまる「密集」、換気の悪い「密閉」、間近での会話「密接」にならないように、常に会社内で「3密」に配慮し、日々の業務を行っています。

■消毒・手洗い・うがい・マスク着用

会社内の各所に消毒液を設置し、入出時には消毒を行うとともに、日頃から身の回りの消毒を実施、また、手洗い・うがいの励行、通勤時や外出時にはマスクを着用し、自分への感染を防ぐとともに、自分から他の方々への感染を防ぐ。

■不要不急の外出を避ける

当社内での新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、従業員の不要不急の外出を禁止し、業務に必要なお打ち合わせ等はインターネット会議システムを活用しております、また、従業員のプライベートにおいても、平日・休日問わず外出を自粛しております。

2020年2月後半…

コロナがやばい…

入室制限だ、リモートだ…、、、、

2020/2/27 危機管理対策本部

既存の危機管理チーム上に設置



00 2020新型コロナウイルス対応
OP_BCP危機対策本部

一般

ここまでではよかったのですが...

感染症対応に伴う各部室の業務運営体制管理（テレワーク・時差出勤利用状況一覧）

社員区分	部室	Gr	氏名	2月27日（木）		2月28日（金）		3月2日（月）		3月3日（火）		3月4日（水）		3月5日（木）		3月6日（金）	
				テレワーク	時差出勤	テレワーク	時差出勤	テレワーク	時差出勤	テレワーク	時差出勤	テレワーク	時差出勤	テレワーク	時差出勤	テレワーク	時差出勤
			従業員名	26	36	39	37	35	60	58	56	68	53	64	55	73	57
			利用人数														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
派遣社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														
正社員	システム	β	F														

予定をExcelに入力するんだ
200人共有でバーン!





石川 陽一さんの登録状況



2020/04/03

テレワーク

07:30-16:30



2020/04/02

テレワーク

07:30-16:30



2020/04/01

テレワーク

06:00-15:00



2020/03/31

出社

07:30-16:30



2020/03/26

テレワーク

06:00-15:00



日付

2020/04/06



場所等

テレワーク



時差出勤

07:30-16:30





テレワーク・時差出勤 登録状況 簡易版

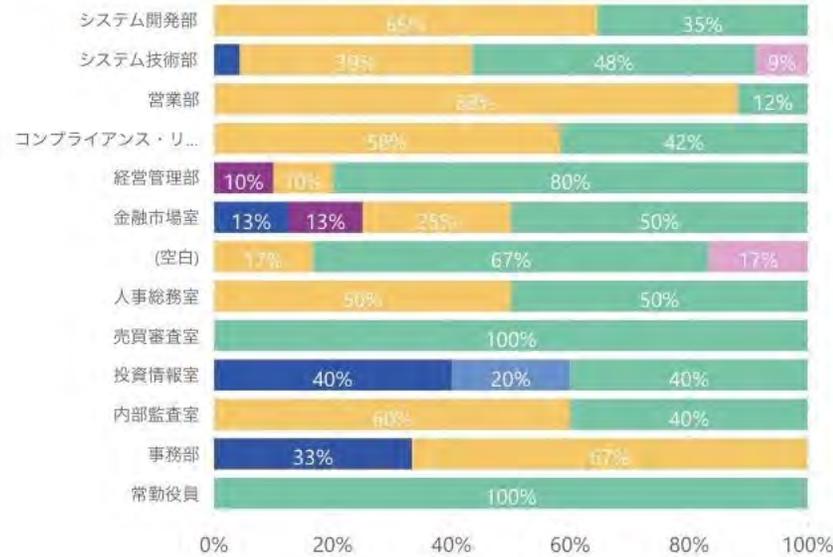
69

テレワーク数

日付

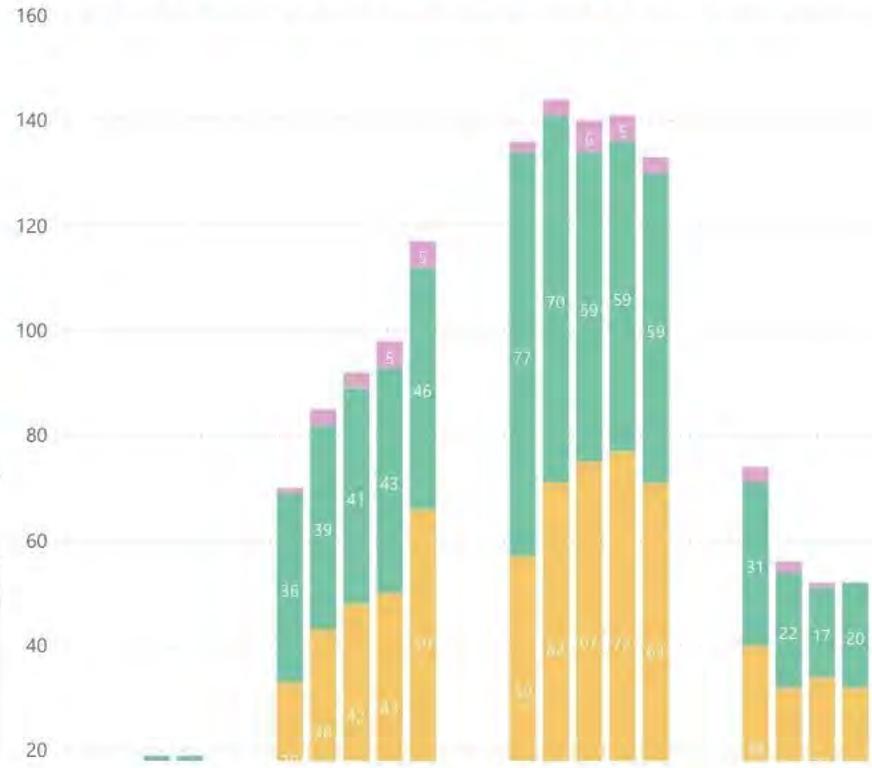
- 2020年4月3日
- 2020年4月4日
- 2020年4月5日
- 2020年4月6日
- 2020年4月7日
- 2020年4月8日
- 2020年4月9日
- 2020年4月10日
- 2020年4月13日
- 2020年4月14日
- 2020年4月15日
- 2020年4月16日

場所等 ●AMテレワーク ●PMテレワーク ●その他 ●テレワーク ●出社 ●全休



直近30日の状況

場所等 ●AMテレ... ●AM休 ●PMテレ... ●PM休 ●その他 ●テレワ... ●出社 ●全休



日	名前	場所等	時差出勤
3	グループ	テレワーク	09:00-18:00
3	コアグループ	テレワーク	08:30-17:30
3	グループ	テレワーク	08:30-17:30
3	グループ	出社	08:00-17:00
3	システムリワーク管理グループ	テレワーク	通常勤務

ローコードアプリ展開

開発案件管理（案件起案：企画概要～プロジェクト承認書）

案件起案

着手工程・成果物
（工事中）

開発進捗

予算管理
（工事中）

検索条件を入力してください



すべて



未起票 未承認 承認済み 否認

72件

20-029：シス開発部・IT戦略G Prj承認書

テスト20200805-005

20-028：シス開発部・IT戦略G エントリー票

テスト20200805-004

20-027：シス開発部・IT戦略G エントリー票

テスト20200805-003

企画概要申請画面へ

編集・承認依頼画面へ

申請承認状況

	ステータス	起案期限	起案日
企画概要	相談済み	-----	2020/08/06
エントリー票	承認済み	2020/08/05	2020/08/06
プロジェクト承認書	承認未済	2020/08/05	

案件情報

案件番号	案件種別	管理 LV
20-029	制度改正	
案件名		

なんでも Powe BI



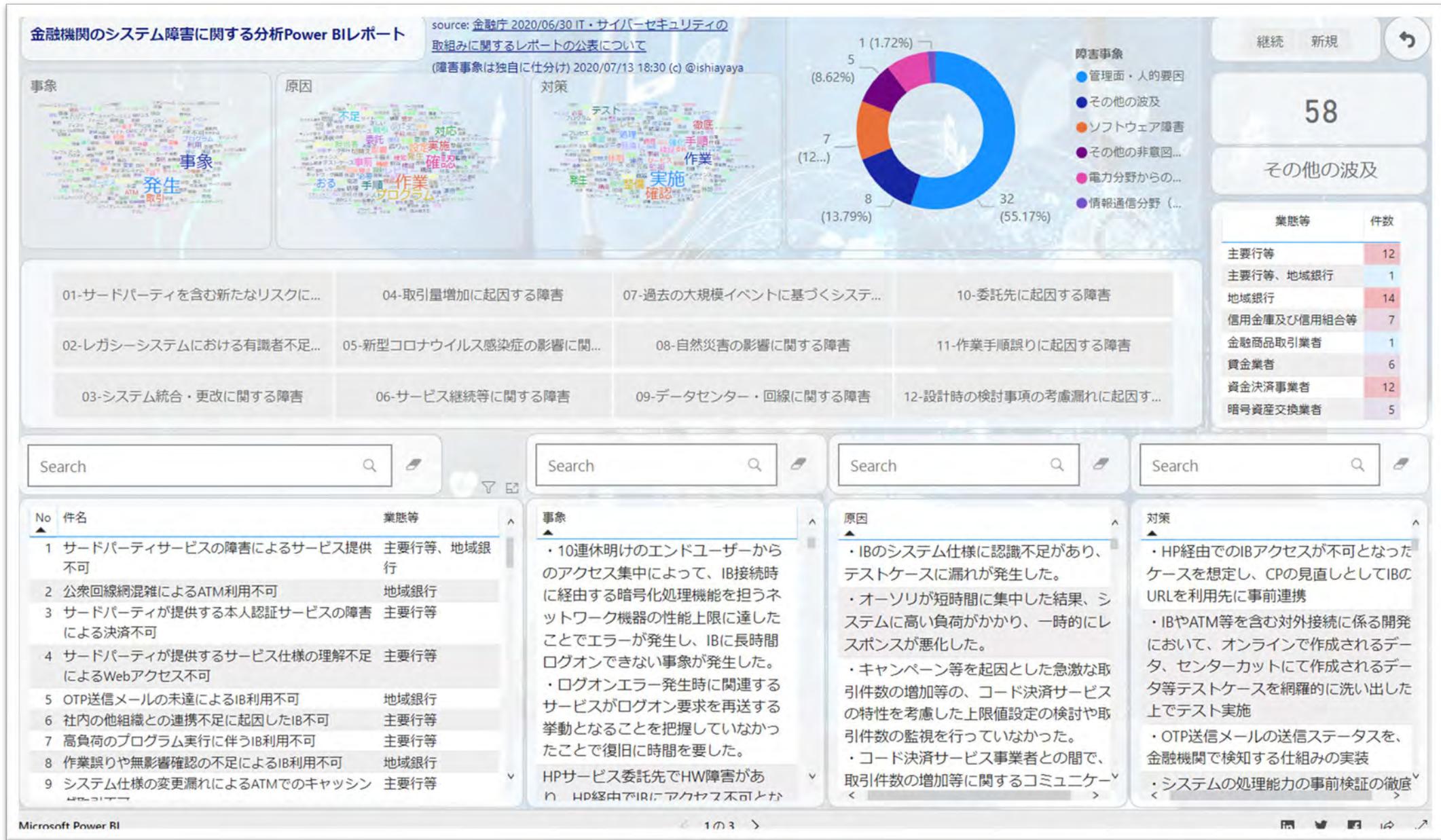
社内勉強会資料「ITガバナンスの論点」

「金融機関のITガバナンス等に関する 調査結果レポート」の概要

令和2年6月



https://bit.ly/fsa-sys202006



主治医



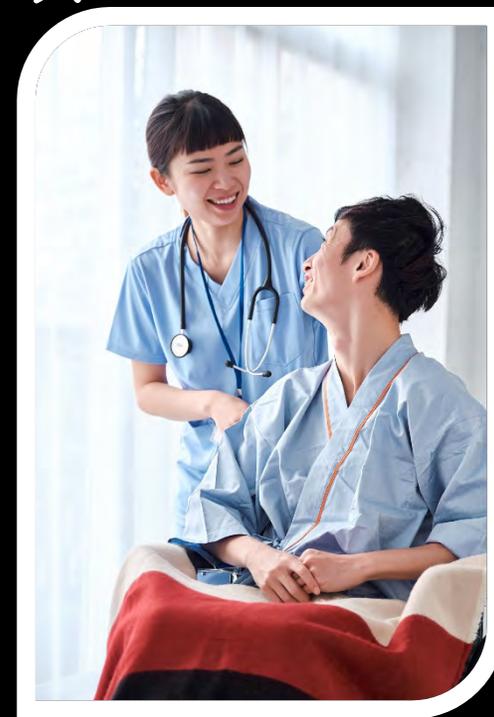
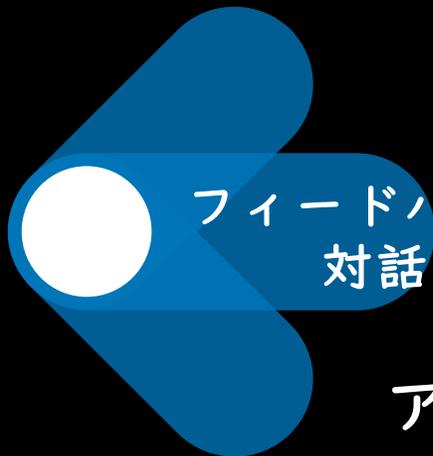
患者

コンプライアンス

治療



フィードバック
対話



アドヒアランス

#TryCivicEngr

ウォーター
フォール

アジャイル

デジタル・トランスフォーメーション(DX)

ゼロトラスト
サイバー

API

Tech Intensity



2025年の崖

セキュリティ

DevOps

COVID-19

コロナ禍

リモート
テレワーク

オンプレ

クラウド

人材不足

RPA

ひとり情シス

#TryCivicEngr



ITの部門（開発,IT Pro）

非IT部門
（ビジネス,営業,管理…）



ITサービス
提供

DX相談
要望





非IT部門 (ビジネス, 営業, 管理...)



自ら「シチズン・ディベロッパー」になる

#TryCivicEngr

今後 5 年間で新たに作られるであろうアプリ数は **5 億個** !
— 過去 40 年間に構築されたすべてのアプリを上回ります¹

モバイルアプリの需要は、IT 部門が供給できる
よりも **5 倍の速さ** で増加しています。²

85% 以上の組織で非構造化データの分析に苦労している⁵

86% の組織で技術者を見つけるのに苦労している³

65%

のエンタープライズアプリケーション開発
は2024年までにローコードになる⁴

¹ Satya Nadella, Microsoft FY19 Q4 earnings call – Jul 2019

² Gartner, How to Deliver Enterprise Mobile Apps Faster – 2017

³ Indeed.com Survey

⁴ Gartner Magic Quadrant for Enterprise Low – Code Application
Platforms – Aug 2019

⁵ IDG: Big Data Survey 2017



ランチタイムに社内IT勉強会



ゼロトラスト

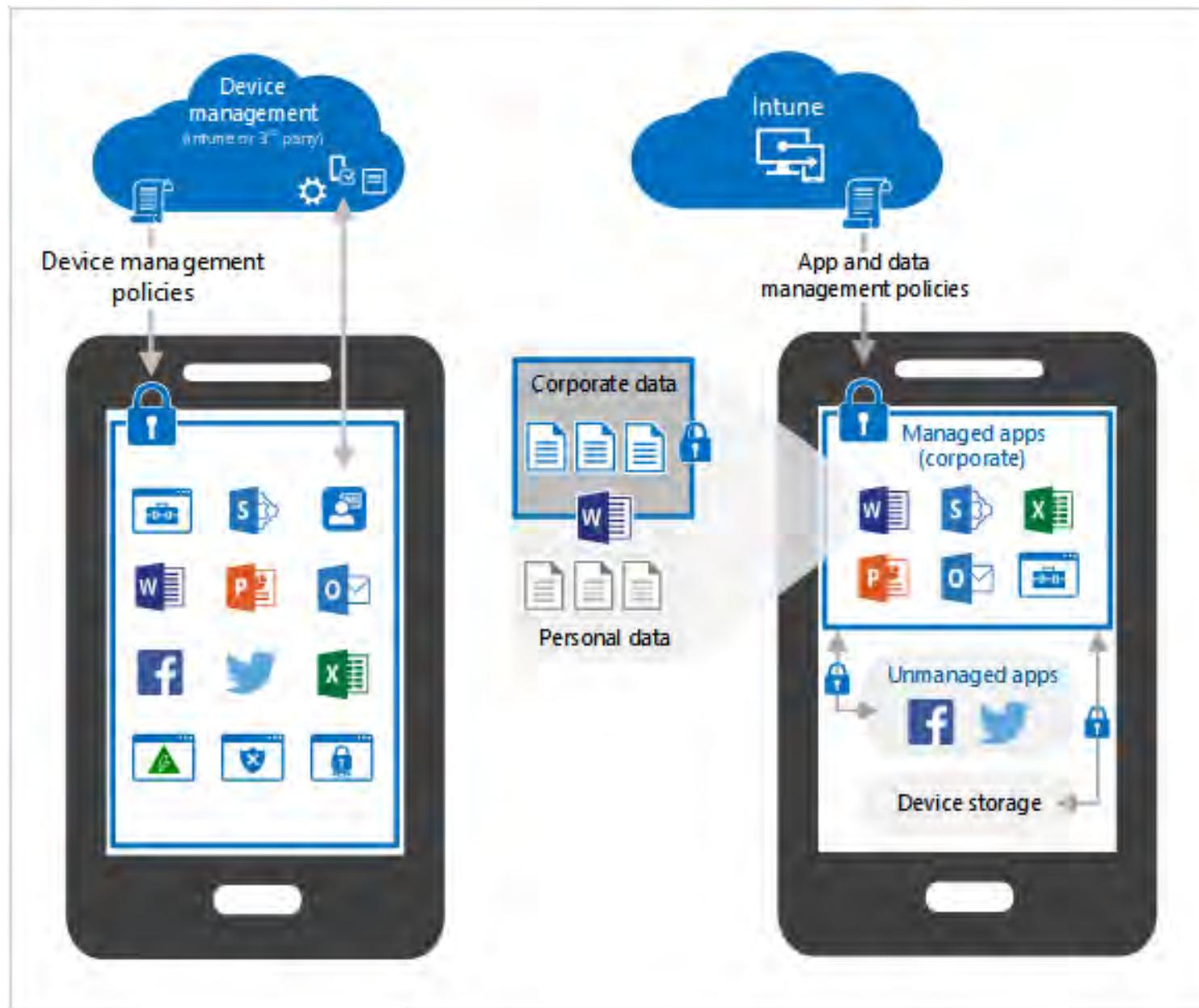
(2019年春) 貸与iPhoneの場合

「iPhoneで予定も見られないの?…」

一定のセキュリティがあれば、便利なことを使える

「現状よりも、よりよくしたい」

MDM



MAM

出所 「Microsoft Enterprise Mobility + Security (EMS) で BYOD を有効にするための技術の決定事項」 より一部抜粋
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/intune/fundamentals/byod-technology-decisions>



AI-OCRが注目されている中、「注文書・請求書のシステム登録自動化」、「申込書のシステム登録自動化」、「社内で保管された大量の文書のデータ化」、「大量アンケートのデータ集計」に活用したいと思いつながら、導入方法が分からなかったり、思ったほどROIが出ないなどで悩んでいる方はいらっしゃいませんか？ AI-OCRを活用し、ROIを達成するためには、OCRの部分だけでなく、その前後のFAX-PDF化、帳票の振り分け作業、帳票チェック作業など、トータルで有機的に連結された仕組みを構築する必要があります。更に基幹業務システムへの連携はRPAを活用することで自動化することが可能になります。本セミナーではこの「AI-OCRのトータルサポート」をご紹介しますとともに、AI-OCRによる生産性改革を成功させるためのノウハウとクラウド基盤としてなぜAzureが選ばれるのかをお伝えします。また、この度、TISより新しくリリースした非定型の帳票読み取りAIサービスを紹介し、このサービスを活用した「AI OCR × RPA」の完成形をご紹介します。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

【開催日時】 [2020年2月12日\(水\) 15:00~17:00](#)

【会場】 日本マイクロソフト株式会社 品川本社

【定員】 50名

【主催】 TIS 株式会社 【共催】 日本マイクロソフト株式会社

[本イベントセミナーへのお申込み・詳細情報はこちら](#)

※こちらのリンクはTIS株式会社のページへ進みます

Communication ID : SREMD55684

[お客様の取り扱い](#) | [プライバシーに関する声明](#) | [プライバシーに関するお問い合わせ](#)

日本マイクロソフト株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー

← 返信



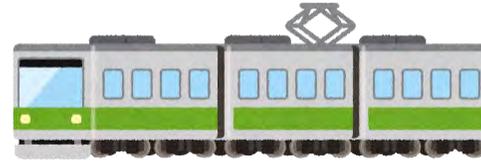
< メモ



完了

組織のデータをここに貼り付けることはできません。 |

ビフォーコロナ



コロナ禍



Microsoft 365



Withコロナ



ゼロトラストで
リアルでいろんなチェックがあるけど
ダイレクトに

Microsoft 365



E5系の新環境

貸与PCの場合

iPhoneより考慮事項が多くなる

でももし一定のセキュリティがあれば、便利なことを...

貸与iPhoneの場合の主な考慮事項



貸与PCの場合



9つのAzure AD関連観点をふまえたゼロトラストの取り組みの概要

Before

AD (組織内、パスワード/指紋認証)

デスクトップPC + リモート用ノートの2台,
端末証明書, シンクラ的利用, マスター複製

VPN接続, Akamai EAA

RDP, OneLogin(SSO,AD連携)

メール等で限定的

ファイルサーバ部暗号化, USB禁止, SSI社内端末管理,
個別端末対策の組み合わせ, Web分離環境,
M365 E5 Exchange Online ATP(標的型攻撃保護)

権限ワークフロー,
アカウント棚卸し/アカンサス

内部脅威検知/エルテスIRI,SSI等

ログ定期分析, SIEM(Splunk ES)等

After (一部は既存環境併用し漸減させる)

AD同期したAzure AD (組織内外、貸与iPhoneと2要素,
リスクベース認証、パスワードレス、顔認証/Windows Hello)

MDM/Intune, Azure AD Join, Win10 Enterprise E5,
デバイス保護/WD Device Guard, 暗号化/BitLocker,
リモートワイプ → ノート一本化へ

条件付きアクセス
ユーザ, 場所, デバイス, アプリ, リアルタイムリスク

エンタープライズアプリケーション(SSO), Apps on Azure AD

Azure AD B2B, 外部も2要素化, Teamsゲストユーザー運用確立

WD Application Guard(コンテナベースのWeb分離環境),
WD ATP(EDR), 端末がWD Security Center連携
Endpoint DLP, セキュリティベースライン, Secure Score,
Security Posture, ハイジーン, 脅威インテリジェンス

権限の付与・はく奪の効率化/自動化
情報保護/ラベル Information Protection & Governance
Communication Compliance, Insider Risk Management,
CASB/MCAS, DLP(データ損出防止), 自動暗号化/検出,
Zscaler等

SIEM(既存 + Azure Sentinel試行), ゼロトラストベース等

01
テナント構成

02
デバイス管理

03
アクセス
コントロール

04
アプリケーション
管理

05
外部ユーザー
協業

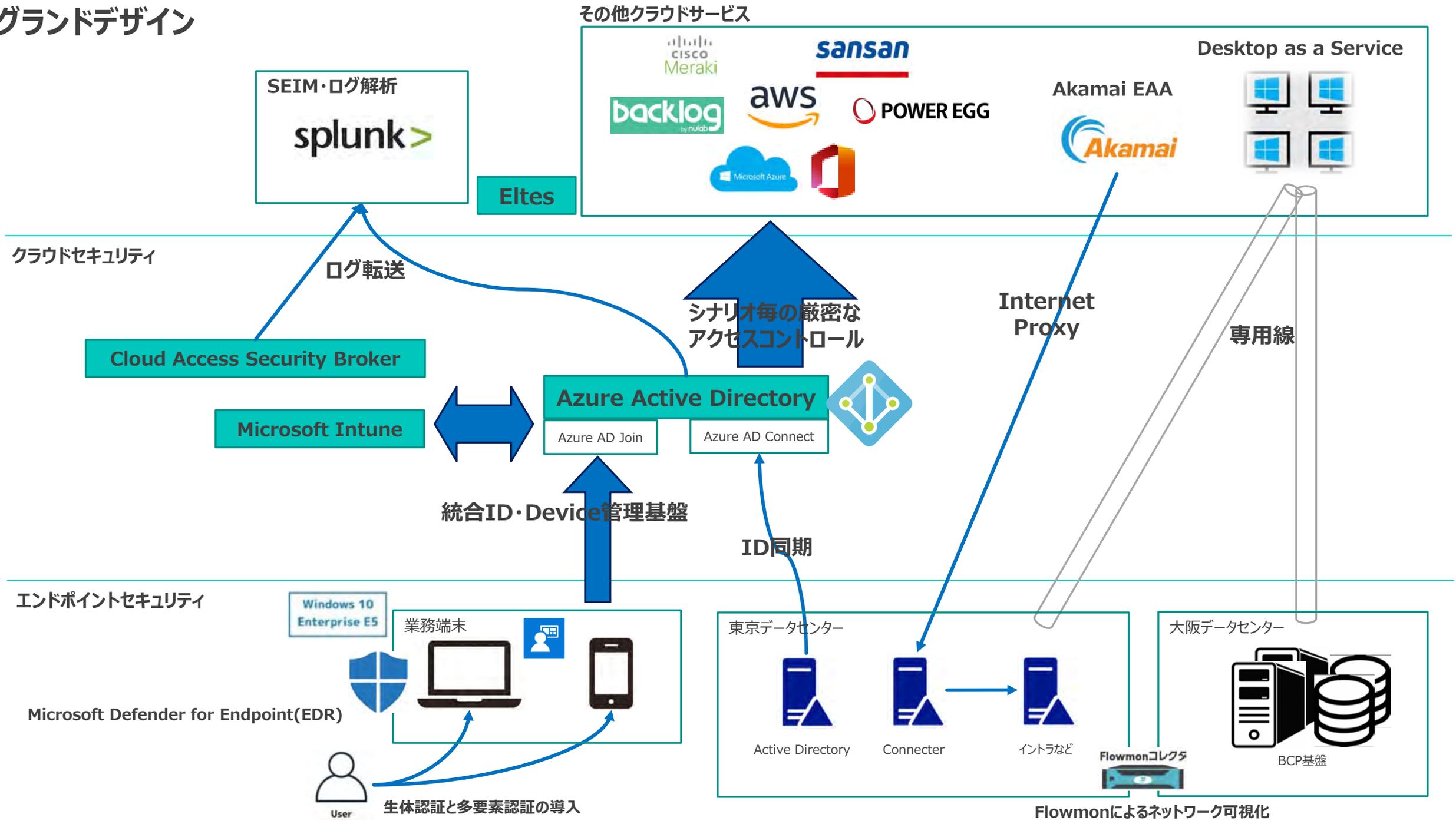
06
セキュリティ
強化

07
ガバナンス

08
コンプライアンス

09
監査

グランドデザイン



DX Criteria



一般社団法人

日本CTO協会



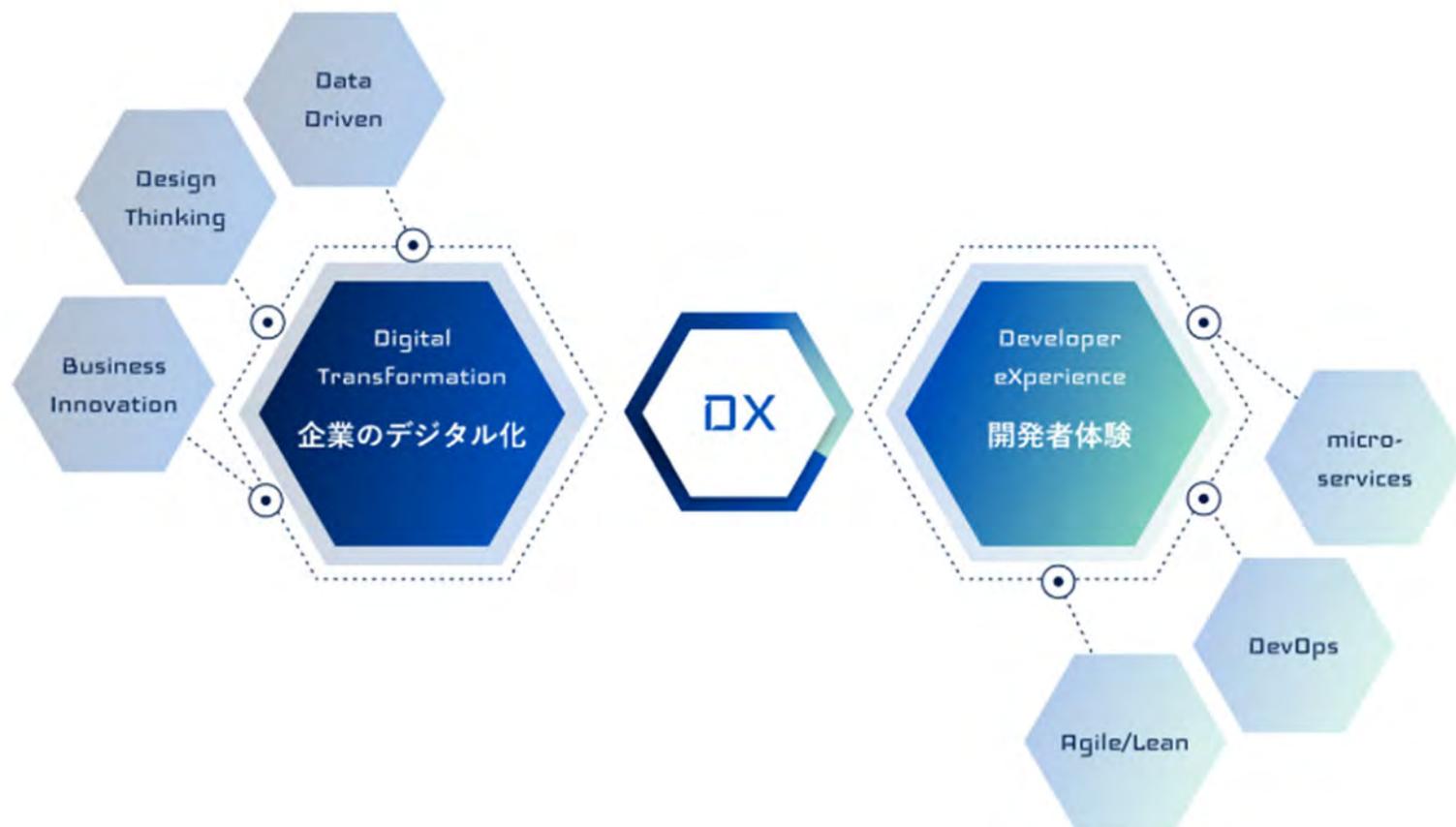
dx criteria

Developer eXperience & Digital Transformation



一般社団法人

日本CTO協会





DX Criteriaの目的 = 超高速な事業仮説検証能力を得ること

Point 1

組織文化と「見えない」投資

高速な開発を行う組織には一度体験しないと価値がわかりにくい投資や習慣があります。この説明コストの高さを軽減し、導入を促します。

Point 2

タスク型ダイバーシティ

事業価値あるサービスが実現するためには様々なデジタル人材と既存事業人材の相互理解と共創関係が必要で、この進展を促します。

Point 3

メリハリのあるIT戦略

標準化・コモディティ化した領域については外部サービスを利用し、競争領域に特化して内製化をすすめるためのメリハリのある投資を促します。

Point 4

組織学習とアンラーニング

新しいツールや潮流に挑戦するための組織学習と、時代が変わってしまった習慣のアンラーニング(学びほぐし)を促します。

Point 5

自己診断と市場比較

関連するレポートと自己診断によって競合状況との差を認識しやすくし、自社の強み弱みを理解して段階的に変化できるように促します。



Point 3

メリハリのあるIT投資

cont'd

自社の強みとして、
改善する価値がある

攻めのIT投資

競争領域

他社/社会と同じ課題を
解決するもの

守りのIT投資

コモディティ

内製化チーム

特定のKPIや事業目標に向かって、内部チームで継続的に開発をすすめるスタイル。事業理解とシステムノウハウが蓄積する。

内部プロジェクト

内製エンジニアや一部フリーランサーなどと協力しながら、一時的なプロジェクトとしてシステム開発を行う。

ラボ型開発

テックリードとプロダクトデザイナーを外部の協力を仰ぎながら、開発と同時にノウハウも伝承できるようにした開発スタイル。

外注型開発・共同開発

XaaSと業務のつなぎ込み部分を交換しやすい形で外注したり、業界コンソーシアムで共通化して、開発を行って効率化を図る。

XaaS/パッケージ利用

最新の動向をチェックした上でうまく選定していく。メンテナンスや追加開発をしつづける費用よりも専門SaaS事業者のほうがリーズナブルなことが多い。



Point 5

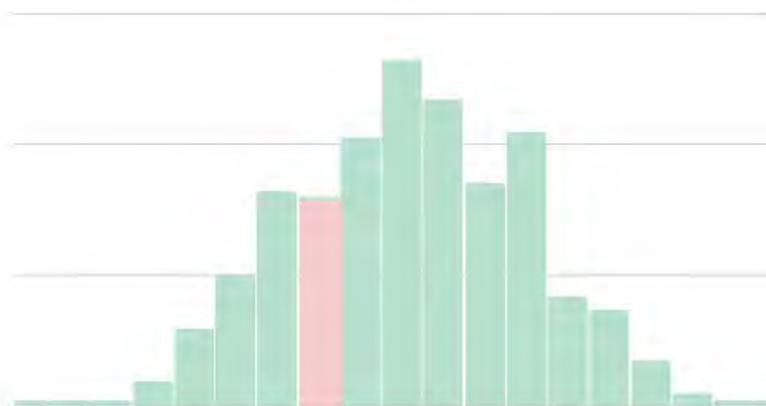
自己診断と市場比較

自己診断(アセスメント)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
バージョン管理	0.4	0.3	0.8	0.6	0.2	0.4	0.9	0.6	0.5	0.2	0.5
ソースコードの明確さ	0.5	0.1	0.0	0.4	0.5	0.5	0.1	0.9	0.4	0.6	0.2
継続的インテグレーション	0.3	0.7	0.9	0.9	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.8	0.7
継続的デプロイ	0.8	0.5	0.9	0.1	0.0	0.9	0.9	0.5	0.6	0.1	0.8
API駆動開発	0.9	0.0	0.6	0.4	0.9	0.3	0.8	0.7	0.6	0.3	0.7
疎結合アーキテクチャ	0.8	0.4	0.6	0.4	0.1	0.2	0.5	0.4	0.4	0.3	0.8
システムモニタリング	0.5	0.9	0.2	1.0	0.4	0.6	0.9	0.6	0.6	0.1	0.5
セキュリティシフトレフト	0.1	0.8	0.2	0.5	0.2	0.8	0.2	0.2	0.9	0.9	1.0

さまざまな項目について、自己診断を行えるような個別具体的なプラクティスを列挙しています。そのことで、あえて取り入れていないのか、検討が進んでいないのかなどより現場感のある議論を促進することが目的です。

市場比較



今後、計測ツールなどを公開していき、自社がどのような状況にあるのかを全体と比較できるようにしていく方針です。ご協力いただける各社の統計データと比較して、今自分たちがどのレベルにいるのかを知れるようにしていく予定です。



Point 5

自己診断と市場比較

なぜ、変える必要があるのか？

DXの実現のためには、今までの常識であったことから「新しい当たり前」を取り入れていく必要があります。

しかし、その外部の基準が存在しないことによって、「なぜそれを取り入れるのか/やってみるのか」の説明をゼロから求められ、結果的に現場は学習性無気力状態になってしまい変革が遅れてしまいます。

なぜ、変えていかないのか？

本基準で、リストアップされている項目は必ずしもすべてを実現する必要はありません。

しかし、それをやらない場合には、自分たちはなぜやらないのかを説明できる必要があるでしょう。

このように基準を使いながら、「変える理由」から「変えない理由」を確認するような文化形成を育むきっかけになればと考えています。

基準を通じて、「説明責任の向き」を反転させていきたい。

5つのテーマと高速仮説検証ループ



-  チーム システムに関わるチームがどれだけ生産的に高速な仮説検証や開発を行うことができる状態にあるかをチェックする。
-  システム システム自体がレガシー化されずにどれだけ安全かつ高速に改善できる状態にあるかをチェックする。
-  データ駆動 社内外のデータがどれだけ活用しやすい状態にあるか、また経営や意思決定に活用されているかをチェックする。
-  デザイン思考 デザインとUXから事業価値を生み出すために必要な仮説設定能力や習慣、効率的に行うための組織についてチェックする。
-  コーポレート 経営やミドルオフィス・バックオフィス機能がどれだけデジタル戦略を意識した活動ができているかをチェックする。



DX Criteriaの構造と観点

テーマ (5個)



カテゴリー (各8個)

1	チーム構成と権限委譲
2	チームビルディング
3	心理的安全性
4	タスクマネジメント
5	透明性ある目標管理
6	経験主義的な見積りと計画
7	ふりかえり習慣
8	バリューストリーム最適化



チェックリスト (各8項目)

メトリクスの計測	チームの人数は、5人以上12人以下か。(ピザ2枚ルール)	はい / いいえ
学習と改善	チームの仕事にある特定の人物に属人化した仕事を洗い出し、減らしていく仕組み・習慣があるか。	はい / いいえ
	チームの権限について、RACI図やデリゲーションボーカーなどによって、可視化され共有されているか。	はい / いいえ
プラクティスと習慣	チームは価値提供をするのに必要な全職能のメンバーで構成されているか。(フィーチャーチーム)	はい / いいえ
	チームおよびチームリーダーは、チームのミッションのために必要な外部のリソースを調達するための予算や権限をもっているか。	はい / いいえ
アンチパターン	チームは存在するが、それぞれのやっている仕事の内容をよく知らないし、代わりにやることもできない。	はい / いいえ
	チームリーダーが複数のチームやプロジェクトを兼務しており、自チームのためにすべての時間を使うことができない。	はい / いいえ
	チームの仕事にある特定の人物に属人化した仕事を洗い出し、減らしていく仕組み・習慣があるか。	はい / いいえ

合計**320個**の観点から、企業のDXの進捗度を自己診断。強みと弱みを分析し、次の一手に。

5テーマ x 各8カテゴリ x 8項目

チーム	システム	データ駆動	デザイン思考	コーポレート
チーム構成と権限委譲	バージョン管理	顧客接点のデジタル化	ペルソナの設定	スパン・オブ・コントロール
チームビルディング	ソースコードの明確さ	事業活動データの収集	顧客体験	開発者環境投資
心理的安全性	継続的インテグレーション	データ蓄積・分析基盤	ユーザーインタビュー	コミュニケーションツール
タスクマネジメント	継続的デプロイ	データ処理パイプライン	デザインシステムの管理	人事制度・育成戦略
透明性ある目標管理	API 駆動開発	データ可視化とリテラシー	デザイン組織	デジタル人材採用戦略
経験主義的な見積りと計画	疎結合アーキテクチャ	機械学習プロジェクト管理	プロトタイピング	モダンなITサービスの活用
ふりかえり習慣	システムモニタリング	マーケティング自動化	ユーザビリティテスト	経営のデジタルファースト
バリューストリーム最適化	セキュリティシフトレフト	自動的な意思決定	プロダクトマネジメント	攻めのセキュリティ

各項目のアセスメント方法

「はい、でも・・・」「いいえ、でも・・・」といった状態は0.5点換算

入力規則	ポイント	備考
Yes	1	実施できている。当たり前になっている。
Yes, but	0.5	実施したが、不完全な状態。あるいは辞める予定になっている。
No, but	0.5	実施していないが、過去に実施してやめた。あるいは、これから実施予定。
No	0	実施できていない。

実際にアセスメントに利用しようとする、ゼロかイチかで評価するのが難しいこともあります。

たとえば、あるプラクティスを来月から実施することになっているとか実施してみたら、色々問題があって今は停止中とかそういった状態がありえます。

このような状態に関しては半分の評点として扱うようにしています。一度だけの失敗ですべてやめてしまうのではなく、当たり前の習慣になるように何度も挑戦していくことが重要です。

アセスメントシートの利用

テーマ	No	カテゴリー	メトリクスの計測			学習と改善			プラクティスと習慣			アンチパターン		
team	1	チーム構成と権限委譲	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	No						
team	2	チームビルディング	Yes	Yes	Yes	No	Yes	No						
team	3	心理的安全性	Yes	No	Yes	Yes	Yes	No						
team	4	タスクマネジメント	Yes	Yes	No, but	No, but	Yes	No						
team	5	透明性ある目標管理	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes, but						
team	6	経験主義的な見積りと計画	No, but	No	No	Yes	No	No						
team	7	振り返り習慣	No	Yes, but	Yes, but	Yes	Yes	No						
team	8	バリエーションと最適化	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	No						
system	1	バージョン管理	No	No	No	No	No	No						
system	2	ソースコードの明確さ	Yes	Yes	No	Yes	No, but	No						
system	3	継続的インテグレーション	Yes	Yes	No, but	No	Yes, but	Yes						
system	4	継続的デプロイ	Yes, but	No, but	No	Yes, but	No	Yes						
system	5	API駆動開発	Yes	No, but	Yes	Yes	Yes	Yes						
system	6	微結合アーキテクチャ	No	Yes	Yes, but	No	Yes, but	Yes						
system	7	システムモニタリング	No	Yes	Yes	Yes	No, but	Yes						
system	8	セキュリティシフトレフト	Yes	Yes	Yes	Yes, but	Yes	Yes						
data	1	顧客視点のデジタル化	No, but	Yes	Yes, but	Yes	No	No						
data	2	事業活動データの収集	No	No	No, but	No	Yes	Yes						
data	3	データ蓄積・分析基盤	No	No	Yes	Yes, but	Yes, but	No						
data	4	データ処理パイプライン	No	Yes	No	Yes	Yes, but	Yes, but						
data	5	データ可視化とリテラシー	Yes, but	No, but	Yes	No	Yes	Yes, but						
data	6	機械学習プロジェクト管理	No, but	Yes, but	Yes	No, but	Yes, but	No						
data	7	マーケティング自動化	Yes	No	Yes	Yes, but	No	No						
data	8	自動的な意思決定	No	No	Yes	Yes	No, but	Yes						
design	1	ペルソナの設定	No, but	Yes, but	Yes	No, but	No	Yes						
design	2	顧客体験	Yes	Yes, but	Yes	No	No	No, but						
design	3	ユーザーインタビュー	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	No, but						
design	4	デザインシステムの管理	Yes	No	Yes	No, but	Yes, but	Yes						
design	5	デザイン組織	Yes, but	No, but	Yes	Yes	Yes, but	Yes						
design	6	プロトタイプング	Yes	No	No	Yes, but	Yes	No						
design	7	ユーザビリティテスト	Yes	No	No	Yes	No, but	No						
design	8	プロダクトマネジメント	Yes	Yes	Yes	No	No, but	No						
corporate	1	スパン・オブ・コントロール	Yes	No, but	Yes	No	No	No						
corporate	2	開発者満足度	Yes	Yes	No	Yes, but	Yes, but	No						
corporate	3	コミュニケーションツール	Yes	Yes, but	Yes	No	Yes	No						
corporate	4	人事制度・育成戦略	No	Yes	No	Yes	Yes, but	Yes						
corporate	5	デジタル人材採用戦略	Yes, but	Yes	No	No	No	No						
corporate	6	モダンなITサービスの活用	No	Yes	Yes	No	No, but	No						
corporate	7	経営のデジタルファースト	Yes, but	Yes	No	Yes, but	No	No						

カテゴリー	メトリクスの計測	学習と改善
チーム構成と権限委譲	Yes	Yes
チームビルディング	Yes	Yes
心理的安全性	Yes, but	No
タスクマネジメント	No, but	Yes
透明性ある目標管理	No	Yes
経験主義的な見積りと計画	No	No
振り返り習慣	No	Yes, but

今後、ツールなどで評価できるようにしていく予定です。
当初はgoogle spreadsheetベースのアセスメントシートがご利用いただけます。

チェックリストは目がいたくなる等…

- 公開されたGitHubから質問項目を抜き
- Google SSからデータを抜き
- Power AutomateでPlannerに流し込み
- 評価分けをドラッグ&ドロップ
- 石川他の5人で
- 1日で簡易アセスし
- Power BIで可視化しました



田 ボード 区 グラフ 目 スケジュール

フィルター (0) グループ別 バケツ

Team

+ タスクを追加

Yes Te47 機能要件のバッファ(緩衝機能)を全体計画に対して設けられていない。(「必須な機能」と「あったらよい機能」が分類されず、曖昧になっている。)

No Te42 見積りと実績の履歴を元に、見積りの精度を向上させるための方法について定期的な学習/ふりかえりを行なっているか。

No, but Te58 チームのバリューストリームマッピングを作成し、繰り返しボトルネックを把握しながら自動化と学習を繰り返しているか。

No Te41 チームのベロシティを把握しており、その分散値の変化を計測しているか。

Yes Te46 スケジュールのバッファ(緩衝期間)を全体計画に対して25%以上確保していない。

System

+ タスクを追加

Yes Sy64 開発企画要件の段階で、設計レベルのセキュリティレビューが実施されていない。(Security by Designの未実施)

0/2

Yes, but Sy59 専門的なアプリケーションセキュリティの知識を持つメンバーが、専任でセキュリティチームにおり、動向や最新情報をもとに自社サービスをレビュー・改善できているか。

No Sy60 OSSのライブラリやモジュールウェアを使用する際、それらの脆弱性情報を自動的モニタリング・警告・パッチ適用するための仕組みまたはサービス等を利用しているか。

Yes Sy61 4半期から1年の間で定期的に、全体的なアプリケーションとインフラの脆弱性診断を受けているか。

No Sy57 CI/CDのパイプラインにソースコードの自動的なセキュリティチェック(静的解析または動的解析)が組み込まれているか。

Data

+ タスクを追加

Yes Da64 自動化ツールを前提とした組織設計をおこなわず、既存の業務や組織にあわせてツールをカスタマイズする。

Yes, but Da45 事業価値と実現可能性の両面を同時に仮説検証できるようなプロジェクト管理(PoCとプロトタイプ作成)を行っているか。

Yes, but Da56 広告運用の成果報告がフォーマットに沿って自動的に行えるようになっていない。

No, but Da57 自動化が進捗するために、判断基準が明確な目標を掲げているか。

No, but Da37 データから得られた推論や仮説が間違っている場合にどのようなデータによって検証可能かをもとにデータ収集や分析が行われているか。

Yes Da62 ビジネスプロセス全体のボトル

Design

+ タスクを追加

Yes De40 デザイナーがプロジェクトの意思決定に関われなかったり情報を伝えるのが遅いため、カスタマージャーニー全体に対する価値が発揮しづらくなっている。

No, but De26 デザインシステムを、完全に網羅的なものを作ろうとせずに継続的に再利用しメンテナンスしていくことができているか。

Yes, but De15 電話やメールでの対応に対して、柔軟な対応をしすぎてしまい自動化の阻害要因になっている。

No De57 権限を持ったプロダクトマネージャという役職が存在し、1サービスに専任の1名以上が任命されているか。

No, but De14 カスタマーサポートなど顧客接点となるスタッフから、課題の吸い上げができていない。

- ホーム
- お気に入り >
- 最近 >
- アプリ
- 自分と共有
- 詳細
- ワークスペース >
- OP_システム統括... ↓

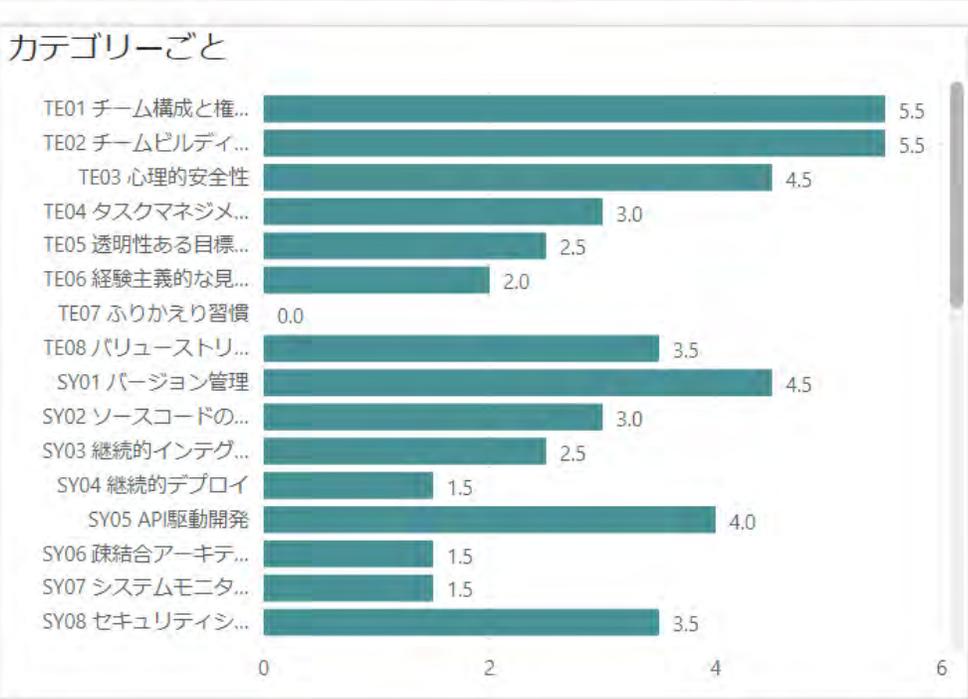
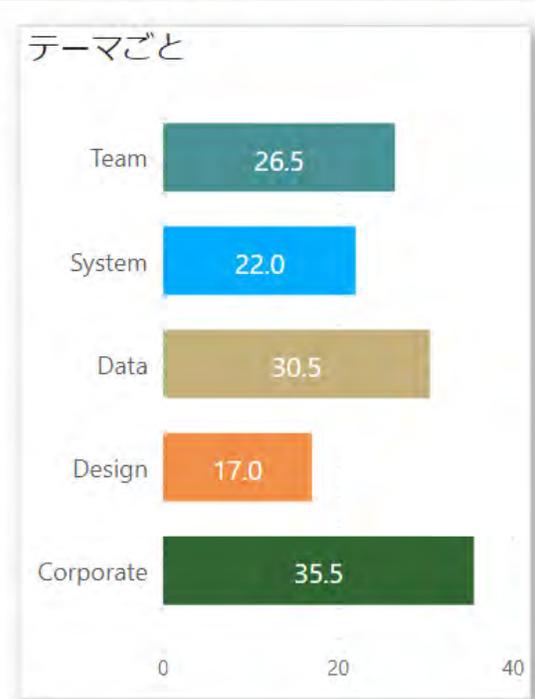
Developer eXperience & Digital Transformation

アセスメント(2020/6)

131.5

点数

VISION AND MESSAGE
デジタル時代の超高速な仮説検証能力を得るには「2つのDX」が必要不可欠



No	評価分類	項目	評価	点数
1	メトリックスの計測	Te01 システムを開発するチームの人数は、5人以上12人以下か。(ピザ2枚ルール)	Yes	1.00
2	学習と改善	Te02 ある特定の人物に属人化した仕事を洗い出し、減らしていく仕組みや習慣がチームにあるか。	No, but	0.50
3	プラクティスと習慣	Te03 チームとチームメンバーの権限について、RACI図やデリゲーションポーカーなどによって、可視化され共有されているか。	No, but	0.50
4	プラクティスと習慣	Te04 チームは価値提供をするのに必要な全職能のメンバーで構成されているか。(フィーチャーチーム)	No, but	0.50
5	プラクティスと習慣	Te05 チームおよびチームリーダーは、チームのミッションのために必要な外部のリソースを調達するための予算や権限をもっているか。	No, but	0.50
6	アンチパターン	Te06 チームは存在するが、それぞれのやっている仕事の内容をよく知らないし、代わりにやることもできない。	Yes	1.00
7	アンチパターン	Te07 チームリーダーが複数のチームやプロジェクトを兼務しており、自チームのためにすべての時間を使うことができない。	Yes, but	0.50
8	アンチパターン	Te08 チームリーダーがメンバーに権限委譲できておらず、ボトルネックになっている。	Yes	1.00
9	メトリックスの計測	Te09 チームは少なくとも半年以上継続して存在しているか。	Yes	1.00
10	学習と改善	Te10 チームは月に一度以上の頻度で仕事のふりかえりをおこなっており、その際にプロジェクト憲章またはインセプションデッキの認識を揃えて	Yes, but	0.50

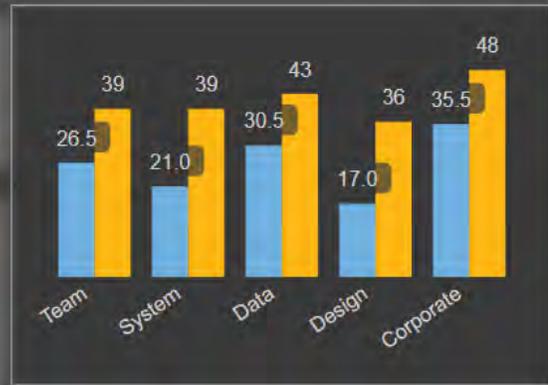
- ホーム
- お気に入り
- 最近
- アプリ
- 自分と共有
- 詳細
- ワークスペース
- CO_全社情報共有

au Kabucom DX Criteria評価履歴

2020/11



204.5
スコア



評価月

2020/06

2020/11

ポイント

0.0

0.5

1.0

テーマ	マトリクスの計測	学習と改善	プラクティスと習慣	アンチパターン	合計
Team	5.0	4.5	13.0	16.5	39.0
チーム構成と権限委譲	1.0	0.5	1.5	2.5	5.5
チームビルディング	1.0	0.5	1.5	3.0	6.0
心理的安全性	0.5	1.0	2.0	2.0	5.5
タスクマネジメント	0.5	0.5	1.5	2.0	4.5
透明性ある目標管理	0.5	0.5	1.5	1.5	4.0
経験主義的な見積りと計画	0.5	0.5	1.5	2.0	4.5
ふりかえり習慣	0.5	0.5	1.5	1.5	4.0
バリューストリーム最適化	0.5	0.5	2.0	2.0	5.0
System	4.0	4.5	15.0	15.5	39.0
Design	4.5	4.5	12.5	14.5	36.0
Data	5.5	5.5	16.0	15.5	42.5
Corporate	4.5	6.0	17.5	20.0	48.0
合計	23.5	25.0	74.0	82.0	204.5

アセスメント	ポイント	回答
Te01 システムを開発するチームの人数は、5人以上12人以下か。(ピザ2枚ルール)	1.0	Yes
Te02 ある特定の人物に属人化した仕事を洗い出し、減らしていく仕組みや習慣がチームにあるか。	0.5	No, but
Te03 チームとチームメンバーの権限について、RACI図やデリゲーションポーカーなどによって、可視化され共有されているか。	0.5	No, but
Te04 チームは価値提供をするのに必要な全職能のメンバーで構成されているか。(フィーチャーチーム)	0.5	No, but
Te05 チームおよびチームリーダーは、チームのミッションのために必要な外部のリソースを調達するための予算や権限をもっているか。	0.5	No, but
Te06 チームは存在するが、それぞれのやっている仕事の内容をよく知らないし、代わりにやることもできない。	1.0	No
Te07 チームリーダーが複数のチームやプロジェクトを兼務しており、自チームのためにすべての時間を使うことができない。	0.5	Yes, but
Te08 チームリーダーがメンバーに権限委譲できておらず、ボトルネックになっている。	1.0	No
Te09 チームは少なくとも半年以上継続して存在しているか。	1.0	Yes
Te10 チームは月に一度以上の頻度で仕事のふりかえりをおこなっており、その際にプロジェクト憲章またはインセプションデッキの認識を揃えているか。	0.5	Yes, but
合計	204.5	

130.5
前回(2020/6)のスコア合計

74.0
前回比

評価者 (石川 陽一) コメント
実施できていない(評価0ポイント)の項目について実施に向けて着手した。

まとめ

2017～2018頃

- 情報共有が弱い
- ダッシュボードがない
- 社内ITが弱い
- 紙、押印、進展しないGW
- ID管理が雑
- メールが多い
- どこか人力感
=コミュニケーションが部分的に×
- IT部門以外もITを迅速に使えないと

Now



dxcriteria
Developer eXperience & Digital Transformation

まとめ

1. 大失敗は見直しの機会になる
2. 現場から変えていこうと動いてきた
3. AI、ローコード、可視化は身近に
4. 進化や成長に終わりはない
5. 人、組織のトランスフォームの強い意識を

A large, white, humanoid robot stands on a red industrial platform. The robot has a boxy, mechanical design with visible joints and panels. It is positioned in the center-right of the frame, looking towards the left. The background is a cloudy sky. The robot's body is primarily white with some grey and black accents. It has a large, rectangular head with a dark visor area. The platform it stands on is red and has a railing. The overall scene is industrial and futuristic.

ありがとうございました。

be
agile